

チャペル だより

第 210 号
2023.12.1

後期主題 「お互いを尊重する」(ローマの信徒への手紙12章9-10節)
"Respect One Another with Mutual Affection" (Romans 12:9-10)

主題聖句 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

編集 広島女学院大学宗教委員会

〒732-0063 広島市東区牛田東4-13-1 TEL (082)228-0386
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines-hju.ac.jp

広島女学院大学

クリスマスのご案内

11/28

★ 聖書のエピソードと美術 東方三博士の礼拝 ★

翻訳家・元フィレンツェ大学講師 中嶋 浩郎 先生

12/5

★ 広島女学院大学人権週間特別プログラム ★

「公害」から学ぶ旅

広島修道大学人間環境学部 教授 西村 仁志 先生

12/12

★ クリスマス・メッセージ「あなたに行われたクリスマス」 ★

カトリック福山教会 主任神父 金起煥(キム・キファン) 神父

12/19

★ クリスマス音楽礼拝 ★

演奏：弦楽四重奏 A.O. カルテット

ショートメッセージ：大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生



※ 上記いずれも「キリスト教の時間」火曜日13:00～13:45 於 砂本記念講堂 ※

11/27(月) 18:00～18:30
広島女学院大学 アイリスガーデン内

クリスマスツリー点火 音楽礼拝



*プログラムに変更が生じた場合、大学ホームページや学内ポータルサイトでお知らせします。

12/17(日) 開場 16:30 開演 17:00
広島女学院ゲーンズホール(広島女学院中学高等学校)

THE MESSIAH 入場無料

広島女学院
クリスマスコンサート・メサイア

12/21(木) 12:30～12:50
広島女学院大学 ゲーンズチャペル

クリスマスコンサート

学生オルガニストによる
パイプオルガン演奏

キリスト教に基づくエッセイ 53

「教会というビルディングタイプ」

人間生活学部 生活デザイン学科 教授 細田 みぎわ

以前、教会のリノベーションの設計をしたことがある。私の専門は建築設計であり、大学就任直後、木曜日チャペルで紹介したことがあるが、11年たちコロナ禍を経て考えることがあった。

教会には礼拝の他、集会、牧師の執務、会議という機能が必要とされ、設計する場合はその機能を満たす空間や室、それに付随する設備の設置に加え、儀式や行事等に必要なもの、寄贈品の収納空間が求められる。「礼拝堂」とは儀式のための空間で、そこにコンセプトを集約し、予算をつけて設計が行われるため、完成した建築は空間としても美しく、建築雑誌にも掲載され脚光を浴びる機会が多い。しかし、それ以外の空間は地味な存在でつけ足しの空間デザインであることも多い。

ところが、この設計の際に現地調査をしたところ、礼拝堂よりも集会室で過ごす時間が長い人がいることに気づいた。そこはまさに大きな家族のリビングルームの様に使用されていた。礼拝堂が儀式を中心とした非日常空間とするならば、集会室は日常空間である。毎週行われる日曜礼拝では、礼拝堂で日常生活とは切り離され落ち着いた時間を過ごすことができ、その後集会室で、顔なじみの人と歓談したり、食事をしながらコミュニケーションをはかることができる。集会室はこの教会の人たちにとっては大切な空間なのである。

日本基督教団京都伏見教会は1906年に設立され、礼拝堂部分は1922年木造の洋小屋という屋根の構造体で作られ、京都市内に現存する木造建築の中でも比較的古い洋小屋であると聞いた。竣工後、何度も増改築を繰り返してきた。そこで私は、数十年にわたり人の成長と共に空間も成長しつづける教会と位置づけ、最後に古い礼拝堂を建て替えるという提案を行った。教会の敷地の前面道路は計画道路であり、道路拡幅時には敷地面積は2/3程度となるため、このことをきっかけに完成と設定した。そして第一段階として、暗くて狭かった集会室のリノベーション工事を行うことになった。

私の父は幼い頃この教会に通い、兄弟姉妹9名や友人と過ごした。以前日本では、冠婚葬祭を家で行うこともあったが、家族数も多く戦争前後に京都市で暮らしていた細田家では、何かと教会の集会室を使用することが多かったと思われる。成人するまでに家や学校以外で集う空間がここにあり、友人や兄弟姉妹との記憶が刻まれており、教会の行事にも積極的に参加し、昔からの友人と会うと思えば出話が尽きない様子であった。父は4年前に他界し、その兄弟も半数となったが、今だに法事などはこの教会で行う。叔父、叔母に加え総勢20名の従兄弟とその家族が集まり、集会室で共に食事を楽しむ。コロナ禍で人と会う機会が減少したこともあったが、家と職場・学校、それとは別に居場所があることは、たとえ挨拶程度であったとしても直接人と係わることができ、お互いの成長を支えると感じた。

このリノベーションの提案は、1998年JCDデザイン賞の文化公共部門で優秀賞を受賞した。予算の都合上、いまだに第二段階の工事へ進むことは難しい状況だが、第一段階の完成後四半世紀を経てもなお、コミュニケーションの場として使用され続けている集会室は、小さな空間ではあるが、私にとっては大切な作品となっている。



日本基督教団京都伏見教会の集会室

当時、北陸電力のエコアイス（夜間電気を利用する蓄熱式の空調機器）のTVCMで使用された



リスタート

人間生活学部 生活デザイン学科 4年

野田 めぐみ

私はチャペル委員を2度経験しています。1年生の時と4年生の時です。1年生の時は、キリスト教をもっと身近に感じたいと思い立候補しましたが、新型コロナウイルスの影響によって活動ができませんでした。大学生らしいことを経験できず、とてももどかしかったです。

4年生になってから、もう一度チャペル委員としての経験がしたいと考え、再度立候補しました。「キリスト教の時間」での誘導だけでなく、他の活動も行われていることを知り、おにぎりアクションプロジェクトと学内掲示物プロジェクトに参加しました。

おにぎりアクションプロジェクトでは、学外向けに宣伝することを目的としたグループに入りました。あやめ祭実行委員会やオープンキャンパススタッフの経験を活かせると考えたためです。実際に、10月のオープンキャンパスでおにぎり型の葉を作成し、裏面におにぎりアクションのホームページのQRコードを付けたものを配布しました。また、あやめ祭でもおにぎりアクションを知ってもらうブースを設営しました。

学内掲示物プロジェクトでは、イベントがあった際に注目してもらえるポスターデザインや掲示板の装飾を作成しました。他に今までに、「キリスト教主義大学ジョイント8.6平和学習プログラム」と学内献血のポスターの作成をしました。装飾については、ガーランドとイラストをラミネート加工したものを作成し、宗教委員会の掲示板に飾りつけました。

卒業論文との両立でチャペル委員の活動が大変だと思いう時もありました。しかし、大学生でなければ経験できなかったことに再度挑戦し、主体になって周囲を巻き込みながら考え行動することを身に付け、成長させることができました。大学生生活のリスタートを卒業までに切ることができてよかったです。

もし、何かサークルや学生組織に加わって活動したいと考えているのなら、チャペル委員からしてみませんか。自分の可能性を広げるきっかけになるかもしれませんよ。



おにぎりアクション
プロジェクト
(オープンキャンパスで
配布した葉)



掲示板プロジェクト (作成した装飾で飾りつけた掲示板)

共に作り上げたもの

人間生活学部 生活デザイン学科 4年

尾濱 愛梨菜

私はチャペル委員で、HJUアートプロジェクトと学内掲示物プロジェクトに参加をしました。1年生の時も委員を任されていたのですが、コロナ禍の影響もあり活動ができず、しかし、4年生でも委員を任されることになったので、初めて本格的に参加をしました。

HJUアートプロジェクトでは、昨年度生活デザイン学科を卒業された中森優先輩がデザインしたスタンドグラス風のちぎり絵モザイクアート、学院の標語「CUM DEO LABORAMUS (我らは神と共に働く者なり)」の制作を引き継ぎ、取り組みました。デザイン自体は完成しており、どう作っていくかもある程度道標ができていたので取り掛かりやすく感じました。難しかったことは、あやめ祭の花や文字の部分などを型取りをすることです。実寸の位置感覚と文字や花同士の大きさを合わせ、貼る時もバランスを統一することが簡単そうに見えて意外と大変でした。スタンドグラス風になるように切り貼りするのは、楽しい作業でした。完成までの作業の中でマスキングテープを足すなどの新たなアイデアを取り入れていくことが、学年学科をこえたプロジェクトメンバーのみんなと、また、時間をこえて卒業された先輩とも、共に作っているという実感がありました。結果として、素敵なボードが完成し、さらに次の作品に取り掛かっています。

学内掲示物プロジェクトでは、まずは掲示板を見てもらいやすくしようということで、掲示板を装飾するものを作りました。百均などの材料で、ガーランドや季節やチャペルに関連しそうな絵を作り、数ヶ所にある掲示板に装飾を施しました。人数が少ないこともあり、作業があまり進められない時もありましたが、秋には掲示板の大きさなどに合った目を引くような飾りつけができ、達成感がありました。

限られた時間で、より良いものを完成させるために試行錯誤を重ねていくことが大変でしたが、とても有意義で充実したものとなりました。様々なプロジェクトに取り組み、仲間と一つのを完成させる達成感を味わえました。



掲示板プロジェクト



アートプロジェクト

(スタンドグラス風のちぎり絵モザイクアート)

2023年クリスマス献金にみなさまのご協力をお願いいたします



宗教委員会では、毎年クリスマスに学生・教職員の皆様に献金をお願いし、「クリスマス献金」として下表の通りの団体等に送金してきました。この営みを「献金」と呼ぶのは、神様から与えられた恵みの中からその力に応じて神様にお献げすることは一人ひとりの神様への献身の表現である、というキリスト教的な考えに沿っています。そのようにして集めた財貨を、祈りや感謝や支援の思いをこめて、諸団体にお送りしています。

わたしたちの身近なところをはじめ遠い場所であっても、様々な困難や生きづらさを感じている人々がいることを覚え、共に生きることへの思いと分かち合いの気持ちを新たにするために、献金を呼びかけさせていただきます。このような趣旨を踏まえ、どうぞお力の及ぶ限りで結構ですので、ご協力をお願いいたします。額の多寡ではなく、私たちの心を献げ、届けたいと思います。

<献金方法について>

12月5日、12日「キリスト教の時間」受付、12月19日の「キリスト教の時間ークリスマス音楽礼拝」

過去4年間のクリスマス献金額と送金先・2023年送金先（予定）

年度	献金先と献金額
2019	台風19号豪雨救援募金7,900円 / 一般社団法人EACH（玉城ちはるさん）7,900円 / 援助修道会（シスター 下條裕紀媛先生）7,900円 / 浄土真宗本願寺派正覚寺（坊守・安芸太田町教育長職務代理 清胤裕子先生）7,900円 / つながり（シンガー・ソングライター 瀬戸麻由さん）7,900円 / ワールド・フレンドシップ・センター 7,900円 / ワールド・ビジョン・ジャパン 7,900円 / 広島いのちの電話7,900円 / 広島キリスト教社会館7,900円 / 広島夜回りの会7,900円 / 止揚学園7,900円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会7,900円
2020	九州熊本豪雨災害支援募金11,100円 / NPO法人 SPICA（山下育美先生）11,100円 / Buen！カミーノ（吉川望さん）11,100円 / つむぎ屋（シンガー・ソングライター 瀬戸麻由さん）11,100円 / 熊本YMCA タイ若竹寮支援11,100円 / ワールド・ビジョン・ジャパン11,100円 / 広島いのちの電話11,100円 / 広島キリスト教社会館11,100円 / 広島夜回りの会11,100円 / 止揚学園11,100円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会11,100円
2021	東日本大震災関連 いわき放射能市民測定室たちね（石森雄一郎先生）11,500円 / 広島YMCA 災害支援募金（中興岳生さん関連）11,500円 / 国立原爆死没者追悼平和祈念館関連 公益財団法人広島平和文化センター 11,500円 / 社会福祉法人 燈火心会 三滝苑（野村妙子さん関連）11,500円 / 認定NPO法人乳がん患者友の会きらら（中川圭さん関連）11,500円 / 広島難病団体連絡協議会（西河内靖泰先生関連11,500円） / ワールド・ビジョン・ジャパン11,500円 / 広島いのちの電話 / 広島キリスト教社会館11,500円 / 広島夜回りの会11,500円 / 止揚学園11,500円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会11,500円
2022	るうてる食堂クレヨン（立野泰博先生関連）8,500円 / 国立原爆死没者追悼平和祈念館関連 公益財団法人広島平和文化センター 8,500円 / 動物愛護NPO SPICA（山下育美先生関連）8,500円 / ワールド・ビジョン・ジャパン（長下部穰さん関連）8,500円 / 広島いのちの電話8,500円 / 広島キリスト教社会館8,500円 / 広島夜回りの会8,500円 / 止揚学園8,500円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会8,500円
2023（予定）	ここいろhiroshima（當山教己さん関連）/ 夕焼けぼっぼ食堂（ハツヤレイコさん関連） / 広島文学資料保全の会（土屋時子さん関連） / NPO法人カンボジアひろしまハウス協会 / 動物愛護NPO SPICA（山下育美先生関連） / ワールド・ビジョン・ジャパン / 広島いのちの電話 / 広島キリスト教社会館 / 広島夜回りの会 / 止揚学園 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会

「広島夜回りの会」活動支援のお願い

本学では「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」を支援しています。

例年は学内に衣類などの提供を呼びかけてきましたが、

今年は「せっけん、タオル、かみそり」などの消耗品に限ってお願いすることになりました。

より厳しい立場や生活環境に身を置かざるを得なくさせられている方々の存在をおぼえ、可能な範囲でのご協力をお願いいたします。

ご協力の品は、11月27日(月)～12月22日(金)の間に、宗教センターにご持参ください。

集まったものを「広島夜回りの会」にお届けします。

皆様のご協力はもちろんのこと、広島市地域福祉課による生活保護を受けるための街頭相談、広島県社会福祉士会による毎週1回の入浴サービス・年6回の昼食＆相談会、聖公会、広島学院の生徒たち・カトリック職町教会有志、広島流川教会による上職町公園で行われる毎月の炊き出し、バプテスト教会によるゆで卵とバナナの準備などのご協力で、長年の野宿生活を強いられてきた多くの方が、否定から肯定へ、失望から希望へと人間らしさを回復されています。風呂に入って身ぎれいにすること、テーブルについて食器で食事をする、他の人と話をする、わたしたちにとってはごく当たり前のことですが、路上生活を強いられている方々には人間らしさを取り戻すきっかけになるということに、あらためて驚きを感じています。

現在、わたしたちが把握している野宿生活者は市内（広島駅周辺／その地下街／球場周辺／図書館／平和公園／繁華街／廣大跡地／宇品埠頭などの周辺地区／水鳥公園）に約20名いらっしゃいます。

活動への取り組み方は、年毎に、参加する人の顔ぶれなどによっても変わってきますが、その中心、誰のために行っているかを忘れずに、人と人との繋がり・絆を大切にしながら活動していく中でわたしたちも成長できればと思います。

野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会代表 肥塚 倅司